



R.I 日本語日本文学科 3 年次生

参加期間： 2016 年 2 月 13 日～3 月 13 日（4 週間）

受入校： Tawa College（Tawa）



I. プログラムについて

まず、最初の一週間は Wellington 市内にある Making Futures Happen Academy で語学研修を受けました。初日に英語のテストを受けました。今までは英会話などで自分から話したりすることがあまり無かったのですが、今回この機会を与えてもらったことで、少し自分から言葉を発するということが出来ようになったと思います。次の一週間は OKC（オセアニア交流センター）の事務所でニュージーランドの日本語教育について学びました。その間に、いろいろな教科書を使って何度も模擬授業をしました。誤用訂正はいろいろなパターンのものであり、個人的な勉強になりました。最後の二週間は受入校の Tawa College に行き先生のアシスタントや少しプレゼンのようなものもしました。学校の子供たちはとても仲良くしてくれて、とても楽しい学校生活を送ることが出来ました。学校の中には、交換留学などで来ている日本人の子もたくさんいました。先生のアシスタントではひらがなやカタカナなどの板書、子供たちとの会話や教科書の音読などをしました。

II. ニュージーランドでの生活について

Tawa に住んでいる家族に一月お世話になりました。ファーザーとマザーと娘さんと、中国からの留学生の四人がいました。ホームステイの間にはいろいろなところに連れて行ってもらいました。二月・三月に行ったので、日本とは逆の気候なのでとても暑く、汗をかくこともしばしばありました。ですが、「Windy Wellington」というほど、風の吹く地域だったので、時々肌寒い時がありました。私がいたところはとても自然が多いところでしたが、都市部である Wellington へは 10 分程度で行ける場所だったので、とてもいいところだったと思います。そして、ニュージーランドの物価は私が行ったときはとても安かったので、お土産などの買い物がとてもお得に出来たと思います。お土産にすると、とても喜ばれるものなどを教えてもらえました。



Ⅲ. 参加希望者へのアドバイス

行くときの荷物を出来るだけ減らして、帰りのお土産を入れるスペースなどを空けておかないと帰りの荷物を整理する時にとっても苦労しました。そして、自分のしたいことは自分から言うという気持ちが大事だと思います。ニュージーランドの人はとても親切なので、言いたいことを最後まで聞いてくれる人がたくさんいました。持っていく服にももう少し気を付けたらいいと思いました。私が思っていたより風が強かったので、羽織るものをもう少し持っていけばよかったと思います。





M.Y 人間生活学科 1年次生

参加期間： 2016年2月13日～3月13日（4週間）

受入校： St Mary's College (Wellington)

I. プログラムについて

このプログラムは①語学研修②事前講習③教育実習といった3つの期間に分かれています。

①語学研修について

MFH (Making Future Happens)という語学学校で全て英語の授業を受けました。期間は第1週目の5日間です。初日にプレイスメントテストを受け、自分のレベルのクラスに入ります。授業形式は、主に英会話をしながら英語の文法を学ぶことでした。時には、ゲームなどもしたりするのでとても面白い授業です。全て英語という事に、驚く人もいるかもしれませんが自分と同じ程度の英語力の人たちと一緒に学習するので、それほど緊張感などはないと思います。

②事前講習について

正式には、日本語教師養成講座といます。こちらも期間は①と同じで5日間です。OKC（オセアニア交流センター）の方から日本語教師のアシスタント及び実習の事前講習を受けます。授業形式は、主に模擬授業でした。OKCの方は日本人なので、授業の講座としては日本語です。私たちは次の週から現地の中高生に対して授業をしなければならないので、日本語と英語で模擬授業をしました。この事前講習があることで最後の教育実習がかなり変わってくるということを実感する重要な講習でした。

③教育実習について

いよいよ実際に現地の中高生に日本語を教えます。生徒たちは皆真面目で素直な子供達ばかりなので、失敗を恐れず自分から積極的に動く事が大事だと思います。アシスタントをさせてもらう日本語教師の先生もとても優しくだったので、そんな先生たちと授業も学校もめいばいに楽しみました。





Ⅱ. ニュージーランドでの生活について

最初の 2 週間の語学学校や OKC の事務所はダウンタウン、いわゆる市街地にあるので授業後はカフェ巡りをしたりショッピングをしたりして満喫しました。もちろん休日も予定が無いのであれば市街地で遊ぶことができました。私の場合は配属校も市街地だったので授業後に何も予定がない時は市街地を歩いたりしていました。

ホストファミリーとは、夕食などを通して色々な会話を楽しみました。一緒にどこかに出かけることはあまりありませんでしたが、優しくいいファミリーでした。

その他、最初の語学学校で仲良くなったクラスメイトと遊んだりもしてとても楽しかったです。



Ⅲ. 参加希望者へのアドバイス

私は「英語が不安だからはじめは悩んでいましたが…」という気持ちは全くありませんでした。だからといって私は英語を上手に話せる訳ではありませんし、むしろ英語力では劣る方ではないかなと思っています。また、確かに英語が話せなくてもなんとかなる時もありますが、当然なんとかならない時もあります。そこが不安な人は不安なのだと思います。

私の考えとしては「国が、言語が違うのだから伝わらないのは当たり前」という気持ちが芽生えてから不安的要素が全てなくなりました。要するに私が重要だと思うのは「伝わらないことをどうしたら伝えられるか」ということです。もちろん自分の英語力を伸ばすことも必要不可欠ですが、時にはジェスチャーや記述で伝えることだって出来ます。留学の全てが話すことだけではないことをわきまえ、異国で生活していた私には不安なんてありませんでした。家族も私が留学に行くと言いだすと行く当人以上に心配しましたが、私自身はいつも以上に平然としていました。

私がこのプログラムを志望した動機は、短期留学は短期留学でも特別変わったことをしてみたいという動機からでした。そう感じた理由として、私が前回に 1 度短期留学を経験していたということもあるかもしれませんが、最近では短期留学というものが珍しくなく、昔に比べれば短期留学をする人はたくさんいます。だからこその他の留学とは変わったことをしてみたい、新たな視点を持ってみたいと思いました。その結果として短期留学をし終えた今では目的も果たすことができ、とても充実した時間が得られました。

このプログラムに興味があるのでしたら是非とも挑戦してほしいです。今プログラムで得られる経験は非常に貴重なものだと私は思います。もちろん元々日本語教師になりたいという動機がある人はもうそれは行動あるのみだと思います。



ニュージーランドの服装などについて現地からのアドバイスとしては、重ね着できるものを持っていくことをおすすめします。“Windy Wellington”とも言われる風の街ウェリントンは、場所によれば暴風警報並に風が強い時もあります。そのため、昼間は過ごしやすい夏の気温なのですが朝晩が少し肌寒いです。現地のニュージーランドの人達とは体感温度が違うのであまり基準にはなりません。あるならば五分袖や七分袖の服がベストだと思います。

